

今はこんな様子だよ。

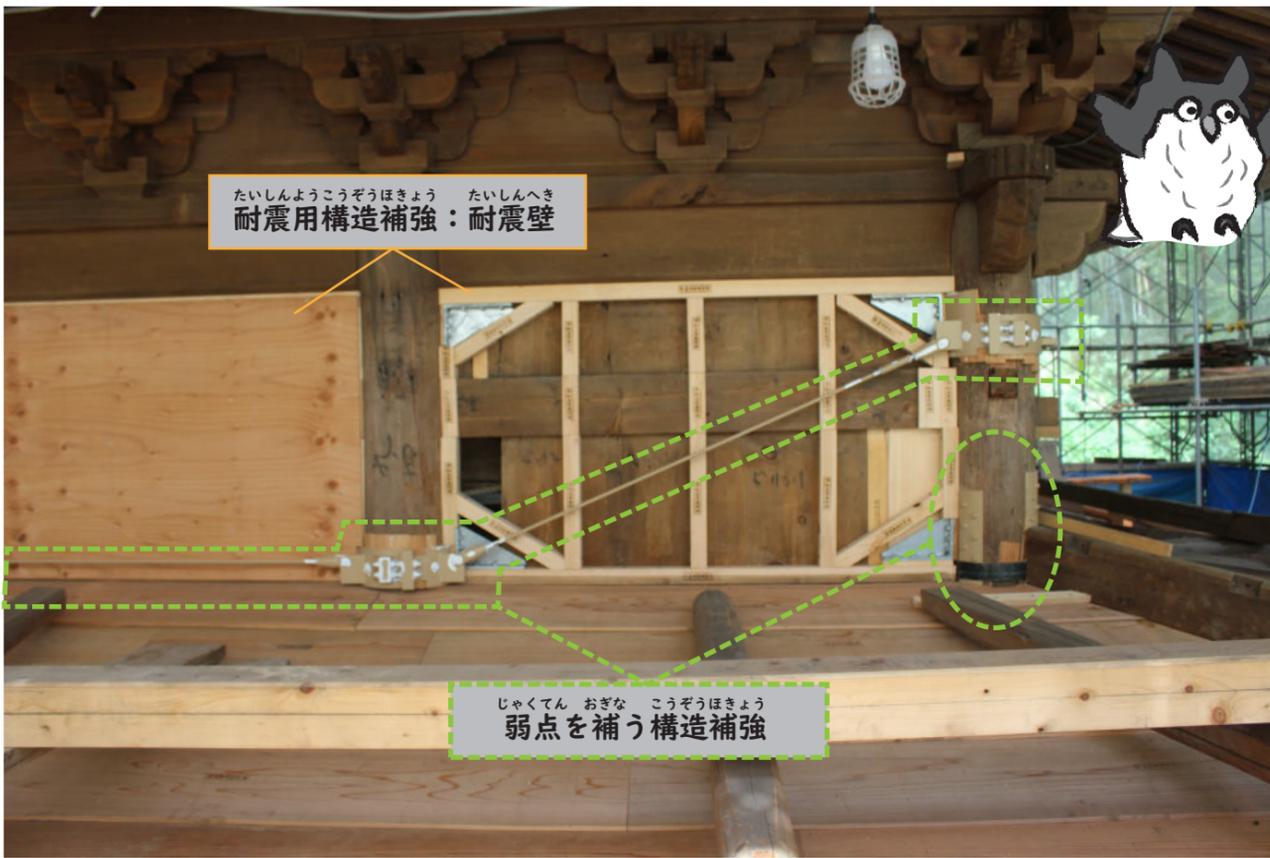


工事の げんば 現場より

7月1週目

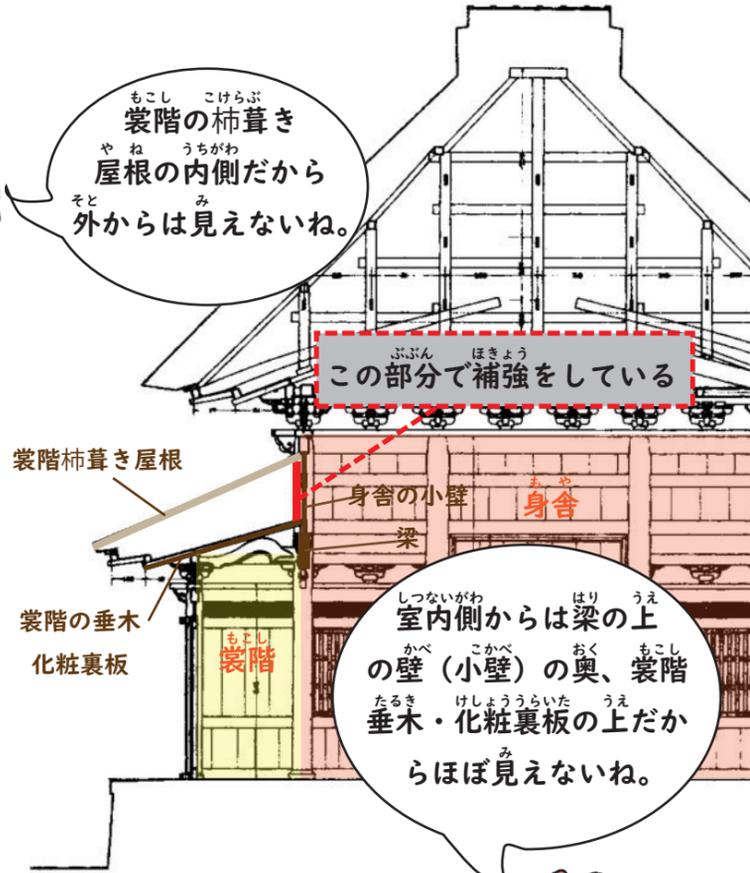
旧東慶寺仏殿の躯体（建物の骨組み）は大地震に耐えられる強度が不足していたため、今回工事で耐震補強を行いました。この補強はなるべく見えない位置に、そして将来よりよい補強方法が検討された際には取り換えられるように、躯体になるべく影響が及ばない方法で設置しています。

また、建物の規模・屋根の大きさに比べて柱や梁が細すぎる弱点があったため、構造補強を行う必要がありました。その補強もなるべく見えにくいように、また室内の空間を尊重した形で設置しています。



耐震用構造補強：耐震壁

弱点を補う構造補強



裳階の柿葺き
屋根の内側だから
外からは見えないね。

この部分で補強をしている

裳階柿葺き屋根

裳階の垂木
化粧裏板

室内側からは梁の上の壁（小壁）の奥、裳階の垂木・化粧裏板の上だからほぼ見えないね。



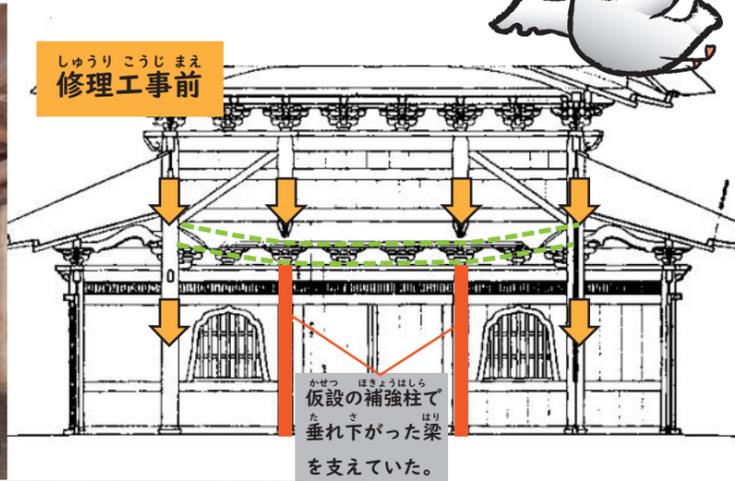
室内の長い梁（三間虹梁）は長さに対して幅が薄く、上からの荷重を十分に支えられず下たわみ、また大きな亀裂も生じてしまっていました。そのため修理工事前は支えとなる2本の仮の柱を梁の下に立て、これ以上梁が垂れ下がらないようにしていました。



修理工事前

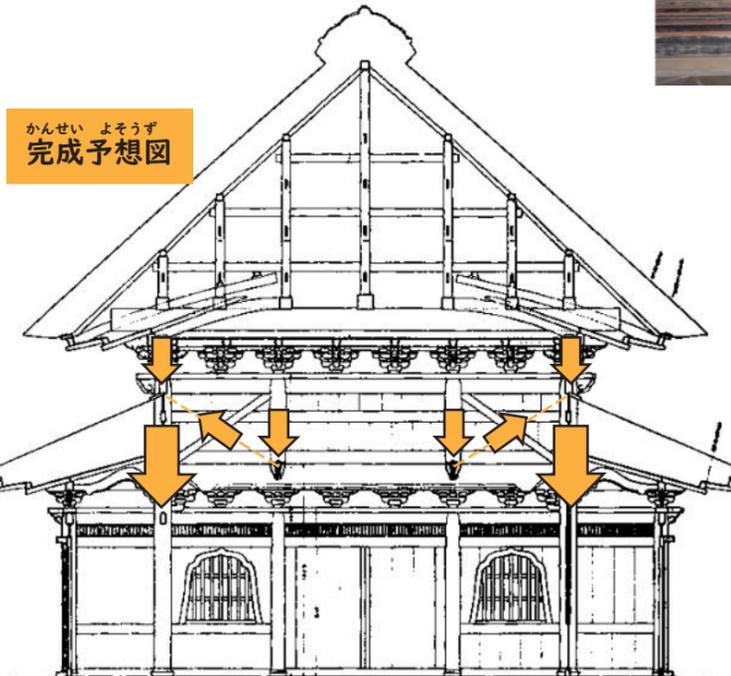
梁（三間虹梁）

仮設の補強柱



修理工事前

仮設の補強柱で垂れ下がった梁を支えていた。



完成予想図



完成予想図

大瓶束を吊りあげるブレース（壁の裏側）

大瓶束

隅柱

大瓶束を隅の柱から引っ張り上げることで、上からの荷重は柱が担うこととなります。梁には自らの重さがかかるのみなので、下から支える柱は不要になり、ひろびろとした本来の空間を取り戻すことができます。